

## ◎スルペラゾン静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 スルバクタム (SBT) +セフォペラゾン (CPZ) (U) Sulbactam Sodium/Cefoperazone Sodium 【分類】  $\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質

【単位】 ▼0.5g (SBT 0.25g+CPZ 0.25g) IV, ◎1.0g (SBT 0.5g+CPZ 0.5g) IV

【常用量】 1~2g/日 [最大 4g]

【用法】 1日2回静注, 点滴静注

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (3,4)

【その他の報告】 4~6hr 毎の投与間隔を 12~24hr に延長 (6)

【PD】 CPZ の場合, CPZ として PD 腹膜炎に, 初回 500mg/L, 維持量 62.5~125mg/L として交換毎に腹腔内投与 (Li PK, et al: Perit Dial Int 2016 PMID: 27282851)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,10)

【その他の報告】 肝障害を合併すると消失が遅延する (1)

CKD 患者でも副作用リスク上昇なく 2g/2g を 1日2回投与することができる (Chao CM, et al: Antibiotics (Basel) 2022 PMID: 35625254)

【特徴】 セフォペラゾンに  $\beta$ -ラクタマーゼ阻害剤スルバクタムを 1:1 に配合した配合剤. CPZ は CTRX とともに胆汁中移行が良好で, 投与後 1~3hr で胆汁中濃度がピークに達する.

【主な副作用・毒性】 ショック, アナフィラキシー, 急性腎不全, 偽膜性大腸炎, 間質性肺炎, SJS, TEN, 血球減少, 肝機能障害, 過敏症, 口内炎, 痙攣, 下痢, 嘔吐, ビタミン K 欠乏症状, 頭痛, 血管炎など

【安全性に関する情報】 腎機能障害は発現しにくい, 肝機能障害は 23% の頻度で認められた (下田賢一郎, 他: 医療薬学 41: 636-42, 2015)

【モニターすべき項目】 出血時間, プロトロンビン時間, 便検査 (偽膜性大腸炎のチェック)

【F】 5% (14)

【代謝】 CPZ は代謝されない (1)

【排泄】 ■CPZ 尿中未変化体排泄率 15~30% (4) 27% (7) 25% (14) 29% (13) 25~30% (1) 70~85% が胆汁中に未変化体として排泄 (4) ■SBT 尿中未変化体排泄率 70~80% (4) 84% (7) 50~80% (10) 72~90% (1) 10% が胆汁排泄 (4)

【CL】 ■CPZ 1.17mL/min/kg (7) 1.2mL/min/kg (13) 46.47±3.41mL/min (1) ■SBT 3.70mL/min/kg (7) 190.17±7.49mL/min (1) 【透析患者の CL】 ■CPZ 1.07mL/min/kg (7) ■SBT 0.81mL/min/kg (7)

【t<sub>1/2</sub>】 ■CPZ 2.0hr (1,4,14) 2.2hr (13) ■SBT 1.5hr (1) 1.3hr (4) 1hr (10) 【透析患者の t<sub>1/2</sub>】 ■CPZ 6~12hr (4) 2.5hr (2) 3.7hr (7) ■SBT 6~12hr (4) 9~21hr (6) 15.2hr (7) 10~21hr (10)

【蛋白結合率】 ■CPZ 90.4% (1) 80~93% (U) 90% (15) 89~93% (13) ■SBT 21% (4) 35~40% (6) 38% (7) 21.1% (1)

【Vd】 ■CPZ 0.14L/kg (U) 0.2L/kg (14) 0.14L/kg (13) 3.26±0.22L/man (1) ■SBT 0.26L/kg (7) 8.37±0.48L/man (1)

【透析患者の Vd】 ■CPZ 0.20L/kg (7) ■SBT 0.59L/kg (7)

【MW】 CPZ 667.65, SBT 255.22

【透析性】 ■CPZ わずかしか透析で除去される (U) CPZ の透析性は低い (1) 除去率 1% (15) ■SBT 20~50% (4) SBT の透析性は高い (1) 【透析時 t<sub>1/2</sub>】 ■CPZ 透析時 t<sub>1/2</sub>: 2.4hr (7) ■SBT 透析時 t<sub>1/2</sub>: 2.3hr (7) 【透析 CL】 ■CPZ 8.1~31mL/min (4,7) ■SBT 87~133mL/min (4,7)

【TDM のポイント】 有効治療域 <CPZ> 0.2~8  $\mu$ g/mL (14) TDM の対象にならない

【O/W 係数】 SBT : LogP=0.01 [1-オクタノール/水系, pH7.0], CPZ : 資料なし (1)

【相互作用】 テトラゾールチオメチル基が肝におけるエタノールの分解を阻害するので, アルコール飲用時にジスルフィラム様作用があらわれることがある (1)

【更新日】 20230309

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。